

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を  
目指した取組事例」  
行田市教育委員会

子供たち一人一人が「できた喜び」を味わうことができる授業実践

事例1

- 学年・教科名 小学校第6学年・算数科
- 单元名 考える力をのばそう「全体を決めて」
- 授業展開の工夫  
一人一人の実態に応じた学びの場を工夫することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った。

導入

子供たちの活動時間を確保

見通しは最小限にする。



導入（問題の理解・見通し・課題の設定）を簡潔（5分以内）にすることで、自力解決、話し合いの時間を確保する。

展開

個別最適な学び

協働的な学び

①「個人で考える」「話し合いながら考える」「先生と一緒に考える」のかを選択して、問題に取り組む。

③問題が解けた児童は、教室前方に置いたタブレットに提示した発展問題に取り組む。



教師は机間指導をしながら全体の取り組み状況を把握し、「別の解き方はないか」、「どのように説明をするのか」といった深い学びにつながる声掛けをした。

自分がどの取り組み方を選択するのかを意思表示し、自分に合った学習の場を選択できるようにした。

まとめ

個別最適な学び

本時の思考・判断・表現の育成を目標としているため、「友達と話し合って気付いたこと」、「友達の考え方でよかったこと」を視点として示し、振り返りを行った。

②自力解決が終わったら、教室後方に集まり、児童同士で考えを説明し合う。



## 事例2

○学年・教科 小学校第4・5学年 音楽科

○单元名 ・いろいろな音のひびきを楽しもう「打楽器の音楽」（4年）

・和音のひびきの移り変わりを感じ取ろう

『静かにねむれ』の和音で旋律づくり」（5年）

○授業展開の工夫

ICT 機器を効果的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業実践を図った。

### 導入

#### 個別最適な学び



デジタル教科書を使って、個々の旋律づくりや音色の特徴を考える。



デジタルの音源で確認しながら実際の楽器で演奏の練習をする。

### 展開

#### 協働的な学び



みんなでそうだんして、長い音のトライアングルとかたくて短い音の木さん、やわらかい音のボンゴの音を重ねてみるときれいな音になると考えて、楽器を選びました。

同じリズムを追いかけようとして重なりすぎると楽しい音楽になるかなと考えた。

前の時間につくったならべ方だと、少しさみしい感じがしたので、3人全員の音を重ねるところをふやしてみた。

真ん中に休むところを作って、変化が出るようにした。

最後は盛り上がる感じで終わらせたので、1人ずつ大きくなるリズムを追いかけようとして出した後、だんだん大きくなるリズムを全員で演奏して、次のカードを最後にして、大きな音をばっさり出せるように考えた。



個の感じ取った楽器の音色の特徴をもとに、グループで話し合いながら、デジタル教科書を活用して音の重なりを考えながら音楽を作り上げ、演奏の練習をする。

旋律を聴き合い、アドバイスをしながら、より良いものに作り上げる。



### まとめ

#### 個別最適な学び

学習支援アプリを活用して、個々の振り返りを共有する。

グループによって一定のリズムでやっていたりみんな違ったようなリズムでやったり重なりすぎたりしてみんなそれぞれ工夫して音楽をしていたからそれを次の音楽でどんなリズムで作ったのかなと思いながら聞こうと思いました

楽器の組み合わせによって、ちがう感じの音楽ができておもしろいと思いました。

同じ楽器をつかっていても、リズムのカードやならべ方がちがうと感じがちがってきえるのでおもしろいと思いました。

#### 【成果と課題】

○意図を明確にししながら学習形態を工夫したり、ICTを効果的に活用したりすることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につなげることができた。

▲個の学習の状況を見取ることが難しい場面があったので、指導と評価の一体化を図っていきたい。